

平成29（2017）年度
大学院人間文化学研究科（博士前期課程）

学生募集要項

日程表

試験区分：一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜

専攻	研究部門	募集日程	出願期間	試験日	合格発表
地域文化学 専攻	日本・歴史文化論 日本・現代地域論 国際文化論	10月募集	平成28年9月9日(金) ～9月16日(金)	平成28年10月13日(木) ～10月14日(金)	平成28年10月21日(金)
		2月募集	平成29年1月16日(月) ～1月23日(月)	平成29年2月9日(木)	平成29年2月23日(木)
生活文化学 専攻	健康栄養	8月募集	平成28年7月25日(月) ～8月1日(月)	平成28年8月23日(火)	平成28年9月2日(金)
	人間関係	2月募集	平成29年1月16日(月) ～1月23日(月)	平成29年2月8日(水)	平成29年2月23日(木)
	生活デザイン	10月募集	平成28年9月9日(金) ～9月16日(金)	平成28年10月13日(木)	平成28年10月21日(金)
		2月募集	平成29年1月16日(月) ～1月23日(月)	平成29年2月8日(水)	平成29年2月23日(木)



公立大学法人

滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

出願にあたっての個人情報の取り扱いについては、下記のとおりとします。

本学が保有する個人情報は、「滋賀県個人情報保護条例」ならびに「公立大学法人滋賀県立大学の保有する個人情報の保護等に関する規程」等により関係法令を遵守し、出願時に大学が取得した氏名、住所その他の個人情報は、下記の目的以外には利用いたしません。

- ①入学者選抜（出願処理、受験票発送、試験実施、成績処理等）、合格通知、入学手続案内、入学者選抜方法の調査・研究等の入試事務および付随する業務
- ②合格者のみ入学に伴う教務事務（学籍、修学指導等）、学生支援事務（健康管理、奨学金申請、後援会等）、授業料等の収納事務および付随する業務

また、上記事務処理の一部を外部に委託し、個人情報を受託業者に提供した場合は、関係法令等により、個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止、その他個人情報の適切な管理に必要な措置に万全を期します。

[注意]

- ・問い合わせがあっても、本人以外には志願者の氏名・住所その他の個人情報は一切お知らせできません。
- ・駅、バス停、大学周辺で合否連絡・下宿案内等と称して個人情報を収集していることがありますが、本学ではそのような行為は一切行っていませんので注意してください。

目 次

I	人間文化学研究科の概要および入学者の受入方針	1
	1. 研究科の構成	1
	2. 教育研究の特色	2
	3. 入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）	2
II	入学者の選抜種別	4
	専攻別・募集時期別募集人員	4
	一般選抜	
	1. 出願資格	4
	2. 選抜方法および試験日程等	6
	3. 出願書類	8
	4. 出願手続	9
	5. 合格発表	9
	6. 注意事項	9
	社会人特別選抜	
	1. 専攻別募集人員	11
	2. 出願資格	11
	3. 選抜方法および試験日程等	11
	4. 出願書類	13
	5. 出願手続	14
	6. 合格発表	14
	7. その他	14
	外国人留学生特別選抜	
	1. 専攻別募集人員	15
	2. 出願資格	15
	3. 選抜方法および試験日程等	16
	4. 出願書類	18
	5. 出願手続	19
	6. 合格発表	19
	7. その他	19
III	入学手続、初年度納付金	
	1. 入学届の提出	20
	2. 入学手続	20
	3. 初年度納付金	20
IV	授業科目の概要および担当教員	
	1. 地域文化学専攻	21
	2. 生活文化学専攻	28

I 人間文化学研究科の概要および入学者の受入方針

現代社会では、科学技術の高度な発達によって物質的豊かさは満たされてきたが、反面、精神的豊かさは失われつつあります。また、物質的豊かさが必ずしも健康で安全な生活を保障するとは言いがたいといえます。

そこで豊かな地域社会とはなにか、真に人間的な生活文化とはなにかが問われているのです。この問いかけに応えるために、人間文化学研究科では、人文・社会科学と自然科学の双方より多面的に研究し、それらを総合する人材を育成し、より高度な学術研究の推進をめざして、本研究科に地域文化学専攻と生活文化学専攻の2専攻を設置しています。

1. 研究科の構成

(1) 地域文化学専攻

本専攻においては、新しい時代に適合する地域社会はいかにあるべきかを考える教育研究を展開します。グローバリゼーションが進む一方で、地方主権の必要性が説かれるなど、時代は変わりつつあります。こうした状況のなかで地域社会はどうあるべきかを考えることが本専攻の目標です。この目標達成のために本専攻には、日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論部門、国際文化論部門を置いています。

日本・歴史文化論部門では、近江や日本を中心に、地域社会の構造や文化を歴史的に考察するとともに、隣接地域にも視点を広げ、日本文化との交流や異同性・関連性について教育研究を行います。

日本・現代地域論部門では、近江や日本を中心に、隣接地域にも視点を広げながら、地域社会の現状を、社会学・地理学・民俗学・保存修景学・文化人類学の調査分析手法を用いて、背景にある地域社会の構造や社会意識を明らかにしつつ、地域活性化をはかるための方法を探ることを目的とした教育研究を行います。

国際文化論部門では、文化人類学・近現代史・思想史・文学・言語学などの学問分野を基盤とし、欧米、アジア地域の文化および言語を対象とした研究をすすめ、世界に向けて情報発信できる人材育成を目的とした教育研究を行います。

(2) 生活文化学専攻

本専攻においては、生活科学と人間科学の立場からライフスタイルを取り扱います。人間のライフサイクル全般を通じた生活と社会との関わりを、生活デザイン、健康と栄養、人間関係の視点から根底的に見直し、真に充足した健康で快適な生活文化と生活環境とを生み出すための教育研究を展開します。このため、生活デザイン部門、健康栄養部門、人間関係部門を置いています。

生活デザイン部門では、生活のなかでのデザインを探究し、健全なライフスタイルと生活環境をデザインすることを目的とし、実践的な教育研究を展開します。

健康栄養部門では、栄養に関する基礎から応用までの健康・栄養科学に運動生理領域をも加え、幅広い有機的な研究を行います。栄養に関する生活の知恵や技術を科学的に捉えることなど実践的な諸問題に取り組み、健康生活の実現を目的とした教育研究を行います。

人間関係部門では、望ましい生活環境を創造するための、新たな人間関係を築く方法を考えます。人間の発達・形成、「社会化」のメカニズム、および現代社会における人間関係の特性について、心理学・教育学・社会学の立場から教育研究を行います。

2. 教育研究の特色

- (1) 本研究科は、それぞれの専門部門の研究を進めるとともに、「地域と生活に根ざした視点」を共有し、研究部門間の教育研究にわたる学際的連携を進めるとともに、学内外の共同研究プロジェクトに参加し、総合的な研究を展開します。また、環琵琶湖からアジアに広がる地域学を学内外と共同で学際的に展開します。
- (2) 学際性と独創性を高めるために、学生は他研究科教員を含む教員、協力関係にある研究機関のスタッフなどの指導を受けることができます。ただし、最終的な指導責任は学生の所属する専攻の主任指導教員が負います。
- (3) 大学院教育に広がりを持たせ、その多様な知的刺激により、学生が創造性を高めるのに有効である外国人留学生の受入れ、外国を含む他大学院との連携を進めます。
- (4) 企業や公共団体をはじめ、多方面の第一線で活躍する社会人のリフレッシュ教育を推進します。このため、社会人特別選抜制度を導入しています。

3. 入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）

（地域文化学専攻）

日本および世界における「地域」の歴史、特性を考察し、それが激変する現代社会の中においてどのような意味を持ち、また未来に向けてどうあるべきかを考察してゆきます。

そのための方法論として、歴史学・考古学・美術史学・民俗学・社会学・文化人類学・保存修景学・地理学・文学・言語学などが援用されます。

したがって、それらの学問分野に関する基本的な知識をもち、関連する文献を読みこなすことができ、また史料読解・発掘・測量・社会調査・データ分析力・語学力など各学問分野に必要とされる基本的技術・技能を身につけた学生を求めています。

（生活文化学専攻）

生活科学、人間科学の立場からライフスタイルと人間関係の問題を対象とする高度な教育研究を行います。すなわち、人間のライフサイクル全体を通して、生活と社会との関わりを、生

活デザイン、健康と栄養、人間関係の諸領域にわたって綿密に再検討し、真に充足された健康で快適な生活文化と生活環境を見いだすための教育研究を行います。このために、生活デザイン論、健康栄養論、人間関係論の3研究部門それぞれにおいて、必要とされる当該分野の基礎知識、思考力、語学力および研究資質を有する学生を求めています。

生活デザイン部門は、生活の中でのデザインを探究し、健全なライフスタイルと生活環境をデザインすることを目的とした実践的な教育研究を展開します。このために、デザインに関する基礎知識と思考力および英語読解力（留学生の場合は日本語能力）を持ち、生活デザインに関する研究資質を有する学生を求めています。

健康栄養部門は、栄養に関する基礎から応用までの健康・栄養科学に運動生理学領域をも加え、幅広く有機的な研究を行っています。栄養に関する生活の知恵や技術を科学的に捉えるとともに健康の維持・増進などの実践的な諸問題にも取り組み、健康な生活の実現を目的とした教育研究を行っています。このことから、当該分野に関する基礎知識および思考力並びに英語読解力（留学生の場合は日本語能力）を持ち、健康に関する栄養学および運動生理学を探究しようとする学生を求めています。

人間関係部門は、望ましい生活環境を創造することができる、新たな人間関係を創出することを目的に、人間の発達・形成、「社会化」のメカニズム、および現代社会における人間関係の特性を、心理学、社会学、教育学等の立場から教育研究を行います。このために、当該分野に関する基礎知識と思考力および英語読解力（留学生の場合は日本語能力）、研究資質を有する学生を求めています。

Ⅱ 入学者の選抜種別

平成29年度滋賀県立大学大学院人間文化学研究科博士前期課程の入学者の選抜は、「一般選抜」のほか、「社会人特別選抜」および「外国人留学生特別選抜」の方法で行います。

社会人特別選抜は、社会的要請に応じて、各種の研究機関、教育機関、企業及び民間ボランティア活動団体等で活躍している社会人に対してリフレッシュ教育の場を提供できるよう、一般選抜とは異なった方法で入学者の選抜を行うものです。

外国人留学生特別選抜は、外国人を対象とし、一般選抜とは異なった方法で入学者の選抜を行うものです。

専攻別・募集時期別募集人員

専攻	部 門	募集人員（10月・2月合わせて）
地域文化学専攻	日本・歴史文化論部門 日本・現代地域論部門 国際文化論部門	9人※

専攻	部 門	募集人員（8月・10月・2月合わせて）
生活文化学専攻	生活デザイン部門 健康栄養部門 人間関係部門	7人※

※ 募集人員には、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜の若干名を含みます。

（注）平成28年8月に生活文化学専攻（健康栄養部門・人間関係部門）、平成28年10月に地域文化学専攻・生活文化学専攻（生活デザイン部門）、平成29年2月に両専攻で行います。

一 般 選 抜

1. 出願資格

次の(1)から(9)のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学を卒業した者および平成29年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および平成29年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および平成29年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および平成29年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および平成29年3月までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修学年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (8) 四年制大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者

- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年3月31日までに22歳に達する者

(注1) 出願資格(8)、(9)で出願しようとする者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って、次の書類を提出してください。

提出書類：①出願資格認定申請書（様式I票）

②最終出身学校の卒業証明書または在学証明書（入学年月日が記入されているもの）

③学業成績証明書（最終出身学校のもの）

④履修の手引き（授業内容のわかるもの）

⑤研究計画書（入学後の希望する研究テーマについてA4用紙に400字程度記入すること。任意様式）

⑥出願資格(9)の場合は最終学歴以降の業績（研究発表等）について記述したもの（任意様式）

提出先等：提出場所 滋賀県立大学教務グループ

提出期間 8月募集（生活文化学専攻（健康栄養部門・人間関係部門））

平成28年7月8日(金)～7月15日(金)まで(必着)

・審査の結果は、平成28年7月22日(金)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

10月募集（地域文化学専攻・生活文化学専攻（生活デザイン部門））

平成28年8月24日(水)～8月31日(水)まで(必着)

・審査の結果は、平成28年9月7日(水)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

2月募集 平成28年12月26日(月)～平成29年1月6日(金)まで(必着)

・審査の結果は、平成29年1月13日(金)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

※いずれの募集も、持参による受付時間は、午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。(土日祝日を除く。)

(注2) 出願資格(8)による者は次の事項に注意してください。

- ①「所定の単位を優れた成績をもって修得する見込み」とは、出願時点において、修得する必要がある科目の全てを修得し、修得単位の80%以上が最上位の評価（点数評価の場合は80点以上）であることをいいます。また3年修了時には、3年次までに修得する必要がある必修科目の全部および選択科目を合わせ卒業要件単位数の80%以上の単位を修得し、かつ、修得単位の80%以上が最上位の評価（点数評価の場合は80点以上）であることをいいます。
- ②この出願資格による入学試験合格者は仮合格者であり、3月末に3年次の修得単位成績を確認後正式に合格者とします。したがって平成29年3月10日(金)までに学業成績証明書を教務グループへ提出してください。
- ③この出願資格により入学した場合、当人の学部学生としての学籍上の身分は、退学となり、大学の学部を卒業していることを要件と定められている種々の国家試験等の受験資格を失うこととなるので注意してください。

2. 選抜方法および試験日程等

学力検査および口述試験の結果と出願書類の内容を総合して選考します。

〈8月募集〉

試 験 日：平成28年8月23日(火)

試 験 場：本学人間文化学部棟

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (健康栄養部門) (人間関係部門)	専門科目	10:00~12:00	部門に関する設問を含む。
	英語	13:00~14:30	部門別に出題
	口述試験	15:00~	専門に関する設問を含む。

(注) 志願者多数の場合、口述試験を翌日に実施する場合があります。

〈10月募集〉

試験日(第1日目)：平成28年10月13日(木)

試 験 場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	小論文	10:00~12:00	専門に関する設問を含む。
	専門科目	13:00~15:30	部門に関する設問および外国語を含む。※

※ 外国語については下記のとおりとします。なお、日本・歴史文化論部門と日本・現代地域論部門を受験する者は、出願の際に入学志願票および受験票の該当欄に選択する言語を記入し、その言語で受験しなければなりません。

日本・歴史文化論部門……英語・中国語・朝鮮語・漢文・日本史料講読より選択

日本・現代地域論部門……英語・中国語・朝鮮語・漢文・日本史料講読より選択

国際文化論部門……英語

試 験 日：平成28年10月13日(木)

試 験 場：本学人間文化学部棟

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (生活デザイン部門)	専門科目	10:00~12:00	部門に関する設問を含む。
	英語	13:00~14:30	部門別に出題
	口述試験	15:00~	専門に関する設問を含む。

(注) 志願者多数の場合、口述試験を翌日に実施する場合があります。

試験日(第2日目)：平成28年10月14日(金)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	口述試験	10:00～	研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。

〈2月募集〉

試験日：平成29年2月9日(木) (地域文化学専攻)

平成29年2月8日(水) (生活文化学専攻)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	小論文	10:00～12:00	専門に関する設問を含む。
	口述試験	13:00～	学士学位論文および研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻	専門科目	10:00～12:00	部門に関する設問を含む。
	英語	13:00～14:30	部門別に出題
	口述試験	15:00～	専門に関する設問を含む。

(注) 志願者多数の場合、口述試験を翌日に実施する場合があります。

3. 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A 1-1 票	入学志願票	一般選抜用を使用すること。 なお、学業成績証明書等の氏名と異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類をあわせて提出すること。
A 1-2 票	履歴書	
B 票	研究志望調書	本学所定の用紙を使用すること。 ※1
学士学位論文		◆地域文化学専攻（2月募集のみ）◆ 学士の学位論文またはこれに代わる論文を1部印刷およびPDFデータをCD等で提出すること。 ※2
学業成績証明書		出身大学(出身学校)所定の様式により作成し、厳封したもの [ただし、本学を平成28年度に卒業見込の者は提出不要]
卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込み証明書		出身大学(出身学校)所定のもの
学位授与証明書または学位授与申請に係る証明書		出願資格(2)の資格で出願する者は、上記卒業証明書に代えて提出すること。
英語能力を証明する書類		◆地域文化学専攻国際文化論部門のみ◆ TOEFL®、TOEIC®、IELTS、実用英語技能検定(英検)、国際連合公用語英語検定試験(UNATE、国連英検)等、英語能力を証明する検定結果、公式スコア票あるいは合格証明書のどれか一つの写し(公式スコア票については出願前2年以内に発行されたもののみ有効)。10月募集に限っては、TOEIC®-IPテスト、TOEFL®-ITPのスコア票の写しも可。
C 票	住所票	可否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D 票	受験票	縦4cm×横3cmの写真(上半身、無帽、正面向き、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの)を写真貼付欄に貼付すること(D票・E票とも同じ写真であること)。
E 票	写真票	
F 票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付すること。
G 票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、 82円分の切手 を貼付すること。
H 票	出願書類提出用封筒	「出願区分」欄の「1. 一般選抜」に○印を付け、「志望研究科専攻」欄、「志願者」欄に必要事項を記入すること。
I 票	出願資格認定申請書	出願資格(8)、(9)で出願しようとする者は、本様式に必要な事項を記入し、出願に先立って所定の期間内に提出すること。
<p>入学検定料 30,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の1週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM(現金自動預け払い機)は利用できません。 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 		

※1 地域文化学専攻国際文化論部門を受験する者は、B票様式に倣った書式を自ら作成し、必ず以下の内容を盛り込んで作成すること(日本語で6,000字以上もしくは英語で3,000語以上)。

(1) 卒業論文等これまでの研究の概要 (2) 博士前期課程入学後の研究計画

※2 内容は、志望専門分野に関するものであること。学士学位論文が志望専門分野に関わらない内容の場合は、これに代わる志望専門分野に関する論文を提出すること。いずれの場合も、字数および言語につ

いては以下の通りとする。

日本・歴史文化論部門および日本・現代地域論部門……日本語で12,000字以上。外国語の場合には原本と日本語の概要（2,500字程度）を提出すること。

国際文化論部門……日本語12,000字以上および英語による要旨500語程度。または英語6,000語以上および日本語による要旨1,000字程度。

(注1) A1票～I票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は本冊子に添付されています。

(注2) 生活文化学専攻生活デザイン部門を志望する者は、A1票～I票の他に、口述試験時に自分の作品（図面・写真など）または研究論文を持参してください。

4. 出願手続

(1) 受付期間 8月募集：平成28年7月25日(月)～8月1日(月) (必着)

10月募集：平成28年9月9日(金)～9月16日(金) (必着)

2月募集：平成29年1月16日(月)～1月23日(月) (必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒 [H票] を用い、郵送または直接持参してください。

なお、郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着とします。また、持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。(土日祝日を除く。)

(2) 願書提出先 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務グループ ☎0749-28-8217・8243

5. 合格発表

8月募集：平成28年9月2日(金) 午前9時

10月募集：平成28年10月21日(金) 午前9時

2月募集：平成29年2月23日(木) 午前9時

事務局前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人に合否の通知書を送付します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

6. 注意事項

- (1) 一度受付をした出願書類および入学検定料は、理由のいかんを問わず返還しません。
- (2) 出願期間を過ぎて到着したものは受け付けませんので、郵送に関しては所要日数を十分に考慮して発送してください。
- (3) 入学を許可した後であっても、出願書類の記載と相違する事実が発見された場合には、入学を取り消すことがあります。
- (4) 出願受付後には出願事項の変更は認めません。ただし、氏名、住所、電話番号に変更があっ

た場合には、下記まで連絡してください。

- (5) 受験者は受験票を持参し、試験開始20分前までに試験室に集合してください。試験開始後は、**30分以内の遅刻に限り**受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
- (6) 心身に障がい等がある入学志願者には、受験上および修学上の配慮を必要とすることがあるので、8月募集は平成28年7月15日(金)午後5時までに、10月募集は平成28年9月2日(金)午後5時までに、2月募集は平成29年1月6日(金)午後5時までに連絡し、相談してください。
- (7) 志願者は、出願に際して志望研究領域および担当教員を決定するに当たり、事前に希望する教員に直接連絡をとることが望ましい。
- (8) その他不明な点は、下記まで問い合わせてください。

《問い合わせ先》

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
滋賀県立大学 教務グループ
☎0749-28-8217・8243
E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

社会人特別選抜

1. 専攻別募集人員

専攻	部 門	募集人員
地域文化学専攻	日本・歴史文化論部門 日本・現代地域論部門 国際文化論部門	(10月・2月募集とも) 若干名 ※
生活文化学専攻	生活デザイン部門 健康栄養部門 人間関係部門	(8月・10月・2月募集とも) 若干名 ※

※ 各専攻とも、一般選抜の募集人員に含まれる。

2. 出願資格

一般選抜の出願資格(P.4～5参照)があり(注)、志望専攻部門に関連する各種研究機関、教育機関、企業および民間ボランティア団体等において、入学時に大学卒業後3年以上または高等学校卒業後7年以上従事している者で、十分な研究成果をあげ得る者

(注) 一般選抜出願資格(9)に該当する者は、出願資格の事前審査を行うので、P.5を参照してください。

なお、同提出書類①～⑤のほか、学歴、職歴、業績のわかるもの(任意様式)を同時に提出してください。

3. 選抜方法および試験日程等

小論文および口述試験の結果と出願書類の内容を総合して判定します。

〈8月募集〉

試験日：平成28年8月23日(火)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (健康栄養部門) (人間関係部門)	小論文	10:00～12:00	部門に関する設問を含む。
	口述試験	13:00～	専門に関する設問を含む。

〈10月募集〉

試験日：平成28年10月13日(木)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	小論文	10:00～12:00	専門に関する設問を含む。
	口述試験	13:00～	研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (生活デザイン部門)	小論文	10:00～12:00	部門に関する設問を含む。
	口述試験	13:00～	専門に関する設問を含む。

〈2月募集〉

試 験 日：平成29年2月9日(木) (地域文化学専攻)

平成29年2月8日(水) (生活文化学専攻)

試 験 場：本学人間文化学部棟

専 攻	試験科目	試験時間	出 題 形 式
地域文化学専攻	小 論 文	10:00~12:00	専門に関する設問を含む。
	口 述 試 験	13:00~	学士学位論文および研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。

専 攻	試験科目	試験時間	出 題 形 式
生活文化学専攻	小 論 文	10:00~12:00	部門に関する設問を含む。
	口 述 試 験	13:00~	専門に関する設問を含む。

4. 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A2-1票	入学志願票	社会人特別選抜用を使用すること。 なお、学業成績証明書等の氏名と異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類をあわせて提出すること。
A2-2票	履歴書	
B票	研究志望調書	本学所定の用紙を使用すること。※1
学士学位論文		◆地域文化学専攻(2月募集のみ)◆ 学士の学位論文またはこれに代わる論文を1部印刷およびPDFデータをCD等で提出すること。※2
学業成績証明書		出身大学(出身学校)所定の様式により作成し、厳封したもの
卒業(修了)証明書		出身大学(出身学校)所定のもの
学位授与証明書		一般選抜の出願資格(2)の資格で出願する者は、上記卒業証明書に代えて提出すること。
英語能力を証明する書類		◆地域文化学専攻国際文化論部門のみ◆ TOEFL®、TOEIC®、IELTS、実用英語技能検定(英検)、国際連合公用語英語検定試験(UNATE、国連英検)等、英語能力を証明する検定結果、公式スコア票あるいは合格証明書のどれか一つの写し(公式スコア票については出願前2年以内に発行されたもののみ有効)。10月募集に限っては、TOEIC®-IPテスト、TOEFL®-ITPのスコア票の写しも可。
C票	住所票	可否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D票	受験票	縦4cm×横3cmの写真(上半身、無帽、正面向き、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの)を写真貼付欄に貼付すること(D票・E票とも同じ写真であること)。
E票	写真票	
F票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付すること。
G票	受験票返送用封筒	受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、 82円分の切手 を貼付すること。
H票	出願書類提出用封筒	「出願区分」欄の「2. 社会人特別選抜」に○印を付け、「志望研究科専攻」欄、「志願者」欄に必要事項を記入すること。
I票	出願資格認定申請書	一般選抜の出願資格(9)で出願しようとする者は、本様式に必要事項を記入し、出願に先立って所定の期間内に提出すること。
<p>入学検定料 30,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の1週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM(現金自動預け払い機)は利用できません。 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 		

※1 地域文化学専攻国際文化論部門を受験する者は、B票様式に倣った書式を自ら作成し、必ず以下の内容を盛り込んで作成すること(日本語で6,000字以上もしくは英語で3,000語以上)。

(1) 卒業論文等これまでの研究の概要 (2) 博士前期課程入学後の研究計画

※2 内容は、志望専門分野に関するものであること。学士学位論文が志望専門分野に関わらない内容の場合は、これに代わる志望専門分野に関する論文を提出すること。いずれの場合も、字数および言語については以下の通りとする。

日本・歴史文化論部門および日本・現代地域論部門……日本語で12,000字以上。外国語の場合には原本と日本語の概要（2,500字程度）を提出すること。

国際文化論部門……日本語12,000字以上および英語による要旨500語程度。または英語6,000語以上および日本語による要旨1,000字程度。

(注1) A2票～I票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は本冊子に添付されています。

(注2) 生活文化学専攻生活デザイン部門を志望する者は、A2票～I票の他に、口述試験時に自分の作品（図面・写真など）または研究論文を持参してください。

5. 出願手続

(1) 受付期間 8月募集：平成28年7月25日(月)～8月 1日(月) (必着)

10月募集：平成28年9月 9日(金)～9月16日(金) (必着)

2月募集：平成29年1月16日(月)～1月23日(月) (必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒[H票]を用い、郵送または直接持参してください。

なお、郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着とします。

また、持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。(土日祝日を除く。)

(2) 願書提出先 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務グループ ☎0749-28-8217・8243

6. 合格発表

8月募集：平成28年 9月 2日(金) 午前9時

10月募集：平成28年10月21日(金) 午前9時

2月募集：平成29年 2月23日(木) 午前9時

事務局前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人に合否の通知書を送付します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

7. その他

「注意事項」、「問い合わせ先」等については、「一般選抜」の項（P. 9～10）を参照してください。

外国人留学生特別選抜

1. 専攻別募集人員

専攻	部 門	募集人員
地域文化学専攻	日本・歴史文化論部門 日本・現代地域論部門 国際文化論部門	(10月・2月募集とも) 若干名 ※
生活文化学専攻	生活デザイン部門 健康栄養部門 人間関係部門	(8月・10月・2月募集とも) 若干名 ※

※ 各専攻とも、一般選抜の募集人員に含まれる。

2. 出願資格

次の(1)、(2)、(3)の要件をすべて満たしている者

(1) 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当する者

- ① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および平成29年3月修了見込みの者
- ② 外国において、学校教育における12年の課程を修了し、外国人留学生として日本の大学を卒業した者および平成29年3月卒業見込みの者
- ③ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および平成29年3月修了見込みの者
- ④ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年3月31日までに22歳に達する者

(2) 在留資格が「留学」である者、または入学時に「留学」を取得できる見込みのある者

(3) 日本語が理解できる者

(注1) 出願資格(1)の①の「外国において、学校教育における16年以上の課程を修了した者」にいう、16年以上の課程とは、初等教育（日本での小学校に相当）から高等教育（日本の大学に相当）に至るまでの課程を指します。自分の学歴について疑問のある場合は、自分で判断をせずに、教務グループまで問い合わせてください。問い合わせは、直接教務グループの窓口まで来ることが望ましく、その際は、必ず自分の学歴を証明する書類（卒業証明書、成績証明書）を持参してください。

(注2) 出願資格(1)の④で出願しようとする者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って次の書類を提出してください。（正本とともに日本語訳または英語訳を添付してください。）

提出書類：①出願資格認定申請書(様式I票)

②最終出身学校の卒業証明書または在学証明書(入学年月日が記入されているもの)

③学業成績証明書(最終出身学校のもの)

④履修の手引き(授業内容のわかるもの)

⑤研究計画書(入学後の希望する研究テーマについてA4用紙に400字程度記入すること。任意様式)

⑥最終学歴以降の業績(研究発表等)について記述したもの(任意様式)

提出先等：滋賀県立大学教務グループ

8月募集（生活文化学専攻（健康栄養部門・人間関係部門）

平成28年7月8日(金)～7月15日(金)まで(必着)

- ・審査の結果は、平成28年7月22日(金)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

10月募集（地域文化学専攻・生活文化学専攻（生活デザイン部門）

平成28年8月24日(水)～8月31日(水)まで(必着)

- ・審査の結果は、平成28年9月7日(水)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

2月募集 平成28年12月26日(月)～平成29年1月6日(金)まで(必着)

- ・審査の結果は、平成29年1月13日(金)までに本人あてに通知しますので、認定された者は、所定の期間内に出願手続きをしてください。

※いずれの募集も、持参による受付時間は、午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。(土日祝日および年末年始休業日を除く。)

(注3) 外国人は、入学時まで、「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」において大学院入学に支障のない在留資格の取得が必要です。出願資格(2)で入学時に在留資格の「留学」を取得できない場合は、入学が許可されないことがあります。

(注4) 平成29年10月入学を希望する者は、出願資格の要件を平成29年3月31日までを平成29年9月30日に読み替えます。

3. 選抜方法および試験日程等

小論文および口述試験の結果と出願書類の内容を総合して判定します。

〈8月募集〉

試験日：平成28年8月23日(火)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (健康栄養部門) (人間関係部門)	小論文	10:00～12:00	部門に関する設問を含む。[日本語による]
	口述試験	13:00～	専門に関する設問を含む。[日本語による]

〈10月募集〉

試験日：平成28年10月13日(木)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	小論文	10:00～12:00	専門に関する設問を含む。[日本語による]
	口述試験	13:00～	研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。[日本語による]

専攻(研究部門)	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻 (生活デザイン部門)	小論文	10:00～12:00	部門に関する設問を含む。[日本語による]
	口述試験	13:00～	専門に関する設問を含む。[日本語による]

〈2月募集〉

試験日：平成29年2月9日(木) (地域文化学専攻)

平成29年2月8日(水) (生活文化学専攻)

試験場：本学人間文化学部棟

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
地域文化学専攻	小論文	10:00~12:00	専門に関する設問を含む。[日本語による]
	口述試験	13:00~	学士学位論文および研究志望調書等に基づいた専門に関する設問を含む。[日本語による]

専攻	試験科目	試験時間	出題形式
生活文化学専攻	小論文	10:00~12:00	部門に関する設問を含む。[日本語による]
	口述試験	13:00~	専門に関する設問を含む。[日本語による]

4. 出願書類

出願に必要な書類		作成方法
A 3-1 票	入学志願票	外国人留学生特別選抜用を使用すること。 *入学志願票に記載された氏名と学業成績証明書等に記載された氏名と異なる場合は、氏名を変更したことを証明する書類を合わせて提出してください。
A 3-2 票	履歴書	
B 票	研究志望調書	本学所定の用紙を使用すること。※1
学士学位論文		◆地域文化学専攻（2月募集のみ）◆ 学士の学位論文またはこれに代わる論文を1部印刷およびPDFデータをCD等で提出すること。 ※2
学業成績証明書		出身大学(出身学校)所定の用紙を厳封したもの
卒業(修了)証明書または卒業(修了)見込み証明書		出身大学(出身学校)所定のもの
日本語能力を証明する書類		◆地域文化学専攻国際文化論部門のみ◆ 日本語能力検定試験（JLPT）、日本留学試験（EJU）等、日本語能力を証明する検定結果、公式スコア票あるいは合格証明書のどれか一つの写し。
住民票の写し		市区町村長が発行したもので、在留資格を明記したもの（原本を提出のこと）
C 票	住所票	可否の通知書等送付先の住所を記入すること。
D 票	受験票	縦4cm×横3cmの写真（上半身、無帽、正面向き、背景なし、出願前3か月以内に撮影したもの）を写真貼付欄に貼付すること（D票・E票とも同じ写真であること）。
E 票	写真票	
F 票	入学検定料振込確認票	所定欄に収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」を貼付すること。 *日本に居住していない者にあつては、払込方法を指示するので、事前にインターネットのE-mailまたは郵便で教務グループまで問い合わせること。
G 票	受験票返送用封筒	すでに在留しているものについては、受験票返送先の住所、氏名、郵便番号を明記し、 82円分の切手 を貼付すること。 *日本に居住していない者にあつては、航空便書状料金（20g）に速達料金を加えた「国際返信用切手券」を同封すること。
H 票	出願書類提出用封筒	「出願区分」欄の「3. 外国人留学生特別選抜」に○印を付け「志望研究科専攻」欄、「志願者」欄に必要事項を記入すること。
I 票	出願資格認定申請書	出願資格（1）の④で出願しようとする者は、本様式に必要事項を記入し、出願に先立って所定の期間内に提出すること。
<p>入学検定料 30,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学検定料は本学所定の「入学検定料振込依頼書」により、出願受付期間の1週間前から出願受付最終日までの間に、指定の金融機関に振り込んでください。なお、ATM（現金自動預け払い機）は利用できません。 振り込み後、「入学検定料振込金受取書」および「入学検定料振込金受領証明書」を受け取り、収納印があることを確認してください。なお、収納印を受けた「入学検定料振込金受領証明書」は、入学検定料振込確認票の所定欄に貼付してください。 		

※1 地域文化学専攻国際文化論部門を受験する者は、B票様式に倣った書式を自ら作成し、必ず以下の内容を盛り込んで作成すること（日本語で6,000字以上もしくは英語で3,000語以上）。

（1）卒業論文等これまでの研究の概要 （2）博士前期課程入学後の研究計画

※2 内容は、志望専門分野に関するものであること。学士学位論文が志望専門分野に関わらない内容の場合は、これに代わる志望専門分野に関する論文を提出すること。いずれの場合も、字数および言語については以下の通りとする。

日本・歴史文化論部門および日本・現代地域論部門……日本語で12,000字以上。外国語の場合には原本と日本語の概要(2,500字程度)を提出すること。

国際文化論部門……日本語12,000字以上および英語による要旨500語程度。または英語6,000語以上および日本語による要旨1,000字程度。

(注1) A3票～I票および「入学検定料振込依頼書」の各書類は本冊子に添付されています。

(注2) 生活文化学専攻生活デザイン部門を志望する者は、A3票～I票の他に、口述試験時に自分の作品(図面・写真など)または研究論文を持参してください。

(注3) 英語以外の外国語で書かれた書類については、日本語訳または英語訳を添付してください。

5. 出願手続

(1) 受付期間 8月募集：平成28年7月25日(月)～8月 1日(月)(必着)

10月募集：平成28年9月 9日(金)～9月16日(金)(必着)

2月募集：平成29年1月16日(月)～1月23日(月)(必着)

出願にあたっては出願書類提出用封筒[H票]を用い、郵送または直接持参してください。

なお、郵送による場合は必ず書留速達扱いとし、受付期間最終日必着とします。また、持参による受付時間は午前9時から午前11時30分および午後0時30分から午後5時までとします。(土日祝日を除く。)

(2) 願書提出先 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務グループ ☎0749-28-8217・8243

E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

※日本に在留していない者で、受験のための在留資格「短期滞在」の取得に日時を要する場合は、事前に上記まで相談してください。

6. 合格発表

8月募集：平成28年 9月 2日(金) 午前9時

10月募集：平成28年10月21日(金) 午前9時

2月募集：平成29年 2月23日(木) 午前9時

事務局前の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人に合否の通知書を送付します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じません。

7. その他

「注意事項」、「問い合わせ先」等については、「一般選抜」の項(P. 9～10)を参照してください。

Ⅲ 入学手続、初年度納付金

1. 入学届の提出（2月募集を除く。）

8月募集の入学試験において合格通知書（仮合格を含む。）を受けた者は、所定の入学届を平成28年9月23日（金）までに提出してください。

また、10月募集の入学試験において合格通知書（仮合格を含む。）を受けた者は、所定の入学届を平成28年11月11日（金）までに提出してください。

期間内に入学届を提出しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。

2. 入学手続

（1）入学手続期間

8月・10月募集 平成29年2月10日（金）～2月17日（金）（必着）

入学手続に必要な書類は、8月・10月募集での入学届提出者に対して平成29年1月下旬に改めて直接本人あてに郵送するので、住所が変更になった場合は必ず教務グループまで連絡してください。（なお、入学料は入学手続と同時に納付することになります。）

2月募集 平成29年3月14日（火）～3月22日（水）（必着）

[仮合格者（P.5（注2）②）にあつては別途教務グループが指定する日まで]

入学手続に必要な書類は、合格通知書に同封して郵送します。

（2）入学手続先

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

滋賀県立大学 教務グループ ☎0749-28-8217・8243

（3）入学手続上の注意事項

- ① 期間内に手続を完了しなかった者については、入学を辞退したものとして取り扱います。
- ② 一度受付をした入学手続書類および入学料は、理由のいかんを問わず返還しません。

3. 初年度納付金

（1）入学料 ① 滋賀県内に住所を有する者 **282,000円**

② その他の者 **423,000円**

（注）滋賀県内に住所を有する者とは、次のいずれかに該当する者のことであり、「住民票の写し」の提出が必要です。

ア 入学の日の1年前（平成28年4月1日、但し10月入学は10月1日）から引き続き滋賀県内に住所を有する者

イ 入学の日の1年前（平成28年4月1日、但し10月入学は10月1日）から引き続き滋賀県内に配偶者または1親等の親族（生計を一にする者に限る。）が住所を有する者

（2）授業料 ① 年額 **535,800円**

（平成28年度の額であり、改定されることがあります。なお、在学中に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。）

② 納付方法 前期（納付期限4月27日）、後期（同10月27日）の2回の分納です。

IV 授業科目の概要および担当教員

※授業科目、講義等の内容、担当者は変更されることがある。

1. 地域文化学専攻

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
日 本 ・ 歴 史 文 化 論 部 門	日本考古学A	<p>【概要】 日本考古学はすでに100年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。</p> <p>【オムニバス方式】 (定森秀夫教授、中井均教授、花田勝広非常勤講師)</p>
	日本考古学B	<p>【概要】 日本考古学はすでに100年を優に越す研究史がある。近年の発展めざましい関連諸科学との連携や関連諸国の考古学研究の進展に伴って、研究が充実すると同時に内容は複雑化してきている。本講義ではこれらの要点を現状に即して簡潔に整理し、対象を近江に関連付けながら、日本考古学の現状と課題を論じていく。</p> <p>【オムニバス方式】 (定森秀夫教授、中井均教授、花田勝広非常勤講師)</p>
	環琵琶湖地域論A	<p>【概要】 琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。</p> <p>【オムニバス方式】 (水野章二教授、東幸代准教授、武田俊輔講師)</p>
	環琵琶湖地域論B	<p>【概要】 琵琶湖を核として、自然的・歴史的・社会的に密接な関係を作り出してきた環琵琶湖地域の特性を、総合的な視点から検討する。環琵琶湖地域の過去と現在を総合的に検討する中で、現代における新しい地域社会のあり方を追求する。授業では、参加者の関心のあるテーマを随時選び、3人の教員と参加者との自由な議論を通じて、環琵琶湖地域に関する認識を相互に深めていくことをめざす。</p> <p>【オムニバス方式】 (水野章二教授、東幸代准教授、武田俊輔講師)</p>
	女性史・ジェンダー論A	<p>【概要】 日本における女性史とジェンダー論を中心としつつ、女性学など他分野との比較研究も行う。例えば、前近代日本は、中国の儒教の影響を受けた。女性観においても同様である。男性に主導された文化によって形作られたイメージ、建前の中に埋没してしまっている女性の現実の姿、ジェンダーの各時代でのあり方、建前的な家父長倫理が現実浸透していく過程等を洞察する。このような過去・現在・未来をとおしての歴史的考察の中で、現在の女性・男性のあり方を相対化し、未来への展望としたい。</p> <p>(京樂真帆子教授)</p>

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
女性史・ジェンダー論B	<p>【概要】 滋賀・近江における女性史・ジェンダー論を考える。従来、地域女性史研究の主な担い手は在野の研究者であった。その先人たちの成果を再評価し、学ぶことによって、新たな地域女性史研究の地平を拓きたい。 また、近江の前近代史における女性の活躍を史料から抽出するにとどまらず、たとえば近代女性の残した記録など、地域に残っている新たな女性史史料の発見・発掘にも挑みたい。</p> <p>(京楽真帆子教授)</p>
美術史特論A	<p>【概要】 日本の美術作品を取り上げ、作品を詳しく見、関連文献を講読し、何が、どのように、なぜ、描かれているのかをともに考えていく。また、美術史研究の方法や目的についても、関連する文献を読み、討論を通して、考えていきたい。言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」が何を見せ主張しているのか、「美術」や「イメージ」について考えるとはどういうことなのかを、文献講読、発表、討論を通して探っていく。</p> <p>(亀井若菜准教授)</p>
美術史特論B	<p>【概要】 日本の美術作品を取り上げ、作品を詳しく見、関連文献を講読し、何が、どのように、なぜ、描かれているのかをともに考えていく。また、美術史研究の方法や目的についても、関連する文献を読み、討論を通して、考えていきたい。言葉とは異なる表現媒体である「イメージ」が何を見せ主張しているのか、「美術」や「イメージ」について考えるとはどういうことなのかを、文献講読、発表、討論を通して探っていく。 なお取り上げる作品や文献は、「美術史特論A」とは異なるものとする。</p> <p>(亀井若菜准教授)</p>
対外文化交流特論A	<p>【概要】 古代の東アジアにおける文化交流をとりあげる。特に、朝鮮半島を軸として、中国王朝と日本との関わりについて追究できる問題、または、朝鮮半島と日本との関わりについて追究できる問題をとりあげる。受講生には、関連論文を読んで、その内容を批判的に紹介してもらう。</p> <p>(田中俊明教授)</p>
対外文化交流特論B	<p>【概要】 朝鮮古代史の諸問題をとりあげる。特に、朝鮮三国および加邪をめぐる、議論になっている問題を中心とする。ただし全てを取り上げるのではなく、受講生の専門と関連する地域・時代を選ぶ。受講生には、その主要論文を読み、その内容を批判的に紹介してもらい、また史料の読解も進める。</p> <p>(田中俊明教授)</p>

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
日 本 ・ 歴 史 文 化 論 部 門	<p>アジア考古学A</p> <p>【概要】 シリアから朝鮮半島までの広大なアジア地域の考古学の成果を概述する。パキスタン・シリアの西アジア考古学、モンゴル・朝鮮の東アジア考古学(朝鮮三国時代および中国はアジア考古学Bで講義)の最新の成果から、アジア地域の歴史は一樣ではなく、多様な歴史的過程を経ていること、そしてそれぞれの地域間で様々な交流を通じた文化の融合などが生じてきたことを考察していきたい。アジア考古学の成果は日本考古学の研究にとっても重要な意味があり、アジアの東端である日本の古代史をアジア史・世界史の中で理解していくための思考材料も提供したい。</p> <p>【オムニバス方式】 (定森秀夫教授、濱崎一志教授)</p>
	<p>アジア考古学B</p> <p>【概要】 朝鮮半島の三国時代および中国の考古学的成果を概述する。朝鮮三国時代と中国魏晋南北朝時代は時期的に平行し、その前の秦漢時代から、中国と朝鮮は密接な連関関係にある。高句麗・百済・新羅・加耶の考古学の成果を豊富な資料を駆使して、提示していく。また、朝鮮三国時代における各国の相互関係・対中国関係についても詳述する。中国考古学では、新石器時代から遼金時代までの考古学的成果を提示し、同時に中国文化の周辺への波及の問題にも触れる。日本古代史は当時の中国・朝鮮の動向抜きには語ることができない。</p> <p>【オムニバス方式】 (定森秀夫教授、濱崎一志教授)</p>
	<p>中国文化史特論</p> <p>【概要】 中国文化史という広大な領域のうち、「変動する「華」と「夷」—「中華」とは何か」を主題として、次の3つの話題を取りあげる。 ①「華」と「夷」—中華思想の源流 ②都城とは何か—帝都のもつ意味 ③王化と化外—中華帝国の「外交」</p> <p>(辻正博非常勤講師)</p>

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
日 本 ・ 現 代 地 域 論 部 門	<p>日本生活文化論</p> <p>【概要】 古来日本人は様々な文化を日常生活のレベルで受容し、それを風土の中でたくみに変容して独自の文化形式を作り上げてきた。そこで、人々の生活の営為の総体としての生活文化の実態を明らかにするとともに、そこに見い出される文化の構造や特質といったものを、地域や時代に即して検討する。</p> <p>【オムニバス方式】 (市川秀之教授、森隆男非常勤講師)</p>
	<p>社会学特論A</p> <p>【概要】 社会学という学問の概観を把握するべく、社会学の理論、および社会学の各分野に関する講読と講義を踏まえつつ、ディスカッションを通じてその理解を深める。</p> <p>(武田俊輔講師)</p>
	<p>社会学特論B</p> <p>【概要】 社会学という学問の概観を把握するべく、社会学の理論、および社会学の各分野に関する講読と講義を踏まえつつ、ディスカッションを通じてその理解を深める。社会学特論Bでは、農村社会における問題を中心とする。</p> <p>(武田俊輔講師)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
日 本	地域産業論 A	<p>【概要】 今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、農林水産業における「売れる」特産品づくりや地元中小企業群による製造業（＝地場産業）の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。</p> <p>（塚本礼仁准教授）</p>
	地域産業論 B	<p>【概要】 今日、地域の振興方策に関する議論は活発であるが、その中でも地域産業の育成という問題の重要性や緊急性は非常に高い。本講義では、都心周辺のインナーシティにおける小売商業や全国各地で多様な形をもって展開する観光事業の実情について、地域経済上の役割または機能といった側面から分析・評価していく。</p> <p>（塚本礼仁准教授）</p>
現 代 地 域 論	環琵琶湖保存修景計画論 A	<p>【概要】 生活環境が急激に変化しつつある現在、環琵琶湖地域で先人たちがつちかっしてきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は町なみ、集落、文化的景観を中心に起こす。</p> <p>【オムニバス方式】 （濱崎一志教授、石川慎治准教授）</p>
	環琵琶湖保存修景計画論 B	<p>【概要】 生活環境が急激に変化しつつある現在、滋賀県周辺で先人たちがつちかっしてきた伝統とはぐくんできた文化をあらためて見直し、調査と再評価を通じてこれからのまちづくりに地域の文化遺産と伝統を再生し、活用する方法をさぐる保存修景計画について述べる。講義は街道、町なみ、集落、文化的景観を中心に、三重県、岐阜県、福井県のなかでも滋賀県に隣接する地域を視野に入れて講義を進める。</p> <p>【オムニバス方式】 （濱崎一志教授、石川慎治准教授）</p>
部 門	地域文化遺産調査・情報論	<p>【概要】 歴史的環境を構成する町なみや集落、遺跡や遺構などの地域文化財の調査と情報化について述べる。デジタルデータの作成、編集、発信について具体的に解説する。</p> <p>【オムニバス方式】 （濱崎一志教授、石川慎治准教授）</p>
	現代中国特論 A	<p>【概要】 現代中国に生きる人々の生活は、急激な経済発展と中国独自の政治体制や制度により、常に変化を余儀なくされ、様々な社会問題が生みだされている。本授業では、こうした問題に対する分析視角を紹介するとともに、社会問題の理解を深める。</p> <p>（横田祥子助教）</p>
	現代中国特論 B	<p>【概要】 中国は膨大な規模の移民を、鉱山開発、商業活動のために、東南アジアや北米大陸へ送りだしてきた。海外に渡った華僑・華人は、20世紀アジアの政治変動の中で、中国と移住先国の間で翻弄され、近年中国が国際社会でプレゼンスを高めるに伴い、再び中国との新たな結びつきを強めている。本授業では、東南アジアおよび北米の華人社会といった「外側の中国」から、中国を逆照射することによって、国境線内部にとどまらない相互の影響力と結びつきについて検討する。</p> <p>（横田祥子助教）</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
国 際 文 化 論 部 門	応用言語学特論A	<p>【概要】 第二言語習得論のテーマである母語の影響や年齢要因、動機づけなどの情意面をどのように外国語教育に応用できるのかという理論と実践面を多角的に研究する。</p> <p>(小栗裕子教授)</p>
	応用言語学特論B	<p>【概要】 This course will examine how applied linguistics studies can help us understand second language learning and teaching. It will also introduce some of the research methods required for graduate school studies. First, we will explore language teaching methods, and the research that has investigated them; this will include the analysis of classroom interaction. Further, we will look at factors that make good language learners, and some of the research methods that can be used to investigate this area. Finally, we will consider how modern corpora can help us understand language more deeply, and how they can be used as a teaching and learning tools. Course participants can choose a research method to further explore an area of their interest.</p> <p>(M.ホークス准教授)</p>
	英語詩学特論	<p>【概要】 In this course we explore English poetry from a range of perspectives. We examine the nature of poetry and English poetics. We read and engage with traditional and contemporary works of poetry in various poetic genres. We consider the "poetry" inherent in other types of language usage. And we write and share original poetry in English.</p> <p>(J.リピー教授)</p>
	日英比較言語学特論	<p>【概要】 言語表現が反映する主体的な外界理解の側面に注目した意味分析の重要性について学ぶ。言語化の背景に潜む事態解釈メカニズムの相違という観点から、日本語と英語の具体的な構文表現を取り上げ比較対照を行う。</p> <p>(小熊猛教授)</p>
	英文学特論	<p>【概要】 伝統的な「英文学」という視点だけではなく、「英語圏文学」という視点から、英語で書かれた文学とその思想的・文化的背景について学ぶ。それらの知見をもとに議論を通して「英語圏文学(及び文化)」の多様性について理解を深める。</p> <p>(山本薫准教授)</p>
	国際文化論特講A (ドイツ言語文化論)	<p>【概要】 ドイツ語に見られる音韻・形態・統語・意味などさまざまなレベルでの言語変化を概観した上で、いくつかの個別の言語事象に焦点を当てる。さらにそれらに関する具体的な研究例を通じて言語学的アプローチの仕方を学ぶ。</p> <p>(吉村淳一講師)</p>
	国際文化論特講B (フランス食文化論)	<p>【概要】 フランス食文化に関する重要な先行研究を通じ、その方法論などについて学ぶ。また同時に、18世紀フランスの食関連文献を原書で読解し、一次資料の扱いに慣れるための訓練を積む。</p> <p>(橋本周子助教)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
国 際 文 化 論 部 門	国際文化論特講C (文化人類学調査法)	<p>【概要】 文化人類学の考え方、調査の方法、基本的な概念などについて、実際の研究例に基づいて論じてゆく。中心となるのは、インドヒマラヤのチベット文化であるラホール地方に関する報告である。</p> <p>(棚瀬慈郎教授)</p>
	国際文化論特講D (中国多民族社会研究)	<p>【概要】 万里の長城を挟んだ中国の北部辺境地域は多民族社会であり、中国が持ち合わせる重要な側面の一つです。本講義では、これらの地域における民族関係の歴史的経緯と現代的な社会構造を分析する。特に、現代社会の複雑な状況を分析するために必要な学際的な試みをしながらか進めてゆく。</p> <p>(ボルジギン・ブレンサイン准教授)</p>
	国際文化論特講E (モンゴル・北アジア文化人類学)	<p>【概要】 本講義では、北アジア、とりわけモンゴルを対象とした文化人類学的研究において焦点となっている問題を論じていく。具体的には、宗教(シャーマニズム・仏教)の問題やエスニシティ、ナショナリズム、資源開発といった問題を扱っていく予定である。日本語のみならず英語の論文も読むことで斯界の最前線を備験していきたい。</p> <p>(島村一平准教授)</p>
	国際文化論特講F (韓国・朝鮮近現代史)	<p>【概要】 朝鮮半島の近現代史についての理解を深め、同時に、朝鮮近現代史と不可分に結びつき否応なく交差している日本(史)への理解も深める。朝鮮近現代史が専門である場合はもちろん、専門外である場合でも、朝鮮近現代史に関する学術的な論文を読み解き、他者の研究を的確に論評する力を身につける。</p> <p>(河かおる准教授)</p>
	国際文化論特講G (中国語歴史文法研究)	<p>【概要】 唐末五代から清代に至るまでの各時代の代表的な語料(言語資料)の講読を通して中国語の口語の歴史を概観する。その際、中心となるのは明清の語料(例えば、『金瓶梅』『紅樓夢』など)で、作品の基礎方言と現代方言(北京方言、吳方言および山東方言)との関連性に着目しつつ、作者の貫籍について考える。</p> <p>(地藏堂貞二教授)</p>
	国際文化論特講H (中国語形式文法論)	<p>【概要】 主として中国語文法の形式化について様々な視点から論じていく。具体的には、文法学者フィルモアのS=P+M(Sは文、Pは命題、Mはモダリティ)という式を中心に関連諸説を展開していく。特にモダリティの形式化は言語処理の分野でも注目される課題の一つである。</p> <p>(呉凌非教授)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
専 攻 共 通	地域文化学特別演習	<p>【概要】 地域の文化にこめられた歴史的伝統や現代的意義を理解し、これらに関する研究を深めていくため、各自が専攻する分野に応じて、文献講読やセミナー形式での報告・討論・評価を行う。</p> <p>(全教員)</p>
	地域文化学特別研究	<p>【概要】 各自のテーマに応じて、研究の遂行に関わる基本的な事項（研究計画の立案、フィールドワークの技術、作業仮説の設定、データの収集・解析、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など）を指導する。</p> <p>(全教員)</p>

(参考) 平成29年度地域文化学専攻専任教員(予定)

日本・歴史文化論部門	専 門 分 野
教授 田 中 俊 明	朝鮮古代史、古代朝日関係史
教授 定 森 秀 夫	東アジア考古学、東アジア交流史
教授 水 野 章 二	日本中世史
教授 中 井 均	日本考古学
教授 京 樂 真帆子	日本古代史
准教授 亀 井 若 菜	日本美術史
准教授 東 幸 代	日本近世史

日本・現代地域論部門	専 門 分 野
教授 濱 崎 一 志	都市史、保存修景
教授 市 川 秀 之	日本民俗学
准教授 塚 本 礼 仁	人文地理学、地域産業研究
准教授 石 川 慎 治	保存修景、集落研究
講 師 武 田 俊 輔	社会学
助 教 横 田 祥 子	文化人類学、現代中国論

国際文化論部門	専 門 分 野
教授 小 栗 裕 子	英語教授法、第二言語習得論都市史、保存修景
教授 地蔵堂 貞 二	中国語学(中国語史)
教授 棚 瀬 慈 郎	文化人類学、チベット研究
教授 呉 凌 非	言語学、中国語学、言語処理
教授 ジョン・リピー	文芸創作、アメリカ文化、英米詩、英語教育
教授 小 熊 猛	英語学、認知文法、認知言語学
准教授 ボルジギンブレンサイン	社会史、中国の民族問題、満洲・内モンゴル地域研究
准教授 山 本 薫	英文学
准教授 島 村 一 平	文化人類学、モンゴル研究
准教授 河 かおる	韓国・朝鮮近現代史、ジェンダー史
准教授 マーティン・ホークス	応用言語学、言語教育
講 師 吉 村 淳 一	ドイツ語学、ドイツ文化
助 教 谷 口 真 紀	アメリカ文化、日本近代思想史、日本近代・キリスト教史
助 教 橋 本 周 子	フランス文化、思想史

2. 生活文化学専攻

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
専 攻 共 通	現代生活論Ⅱ	<p>【概要】 現代生活における人間関係での諸問題をオムニバス方式により、それぞれの専門領域から批判的に検討する。具体的には以下のテーマによって行う。</p> <p>【オムニバス方式】 (竹下秀子教授) 人間発達の進化的基盤と社会的支援 (松嶋秀明教授) 司法と福祉、学校教育 (大橋松行教授) 生活環境の問題点と市民運動・住民活動 (細馬宏通教授) 日常生活における身体運動とコミュニケーション</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
生 活 デ ザ イ ン 部 門	住環境デザイン特論A	<p>【概要】 心理的・生理的に快適な室内空間を計画するためには、人間とインテリア・エレメントとの相互関係を捉える必要がある。その実験・調査手法を論じるとともに、それらについての研究資料を通じて室内環境計画上の問題点について考察する。また、超高齢社会となった現在、快適な室内環境を計画していくためにはユニバーサルデザインの視点を取り入れていく必要がある。その意義について論じるとともに、住居計画での実例について分析する。</p> <p>(宮本雅子教授)</p>
	住環境デザイン特論B	<p>【概要】 都市や地域において、どのような居住環境の計画、デザインを考えればよいのか、その計画理念やデザイン手法について、より専門的な見地から考える。各年度ごとに、鍵となるテーマを設定し、テーマに即して実践的形式を採り入れた学習をおこなう。</p> <p>(藤木庸介准教授)</p>
	住環境デザイン特論C	<p>【概要】 年度ごとにテーマを設定し、様々な場所から、空間をデザインしているエレメントを抽出し、地域性や機能性、属性、関係性など、より実践的、専門的な視点から調査・分析する。また、それぞれのエレメントの問題点や、引用、転用の可能性を探り、実践的なデザインへの応用を考える。</p> <p>(佐々木一泰講師)</p>
	道具デザイン特論A	<p>【概要】 道具デザインに関する専門的かつ理論的知見を深めるために、主として近代から現代にいたる生活用具および生活機器のデザイン変遷について、いくつかの事例を選び、その技術的、経済的、社会的、文化的背景からの分析・評価をおこなう。関連資料の探索・収集、資料批判、実物資料（最終製品）の実見のほか、できればメーカー関係者やデザイナーからの聞き取り、その道具の使用実態の調査などを含めて、個々の道具デザインの成立過程・成立要因を合理的に理解し、問題点を明らかにすることを学ぶ。</p> <p>(面矢慎介教授)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
生	道具デザイン特論B	<p>【概要】 道具デザインに関するより専門的な知見を深めるために、年度ごとにテーマを選び、実務的観点・手法から関連資料の探索、調査、分析をおこなって、当該分野のデザインをめぐる現状の問題点を探り、その実践的解決策を共に考える。</p> <p>(印南比呂志教授)</p>
	道具デザイン特論C	<p>【概要】 多様化しつつあるデザインの役割への知識を深める。デザインによって解決される問題について掘り下げを行い、デザインに求められる現実的なテーマを設定し、商品企画、パッケージ、ブランディング、デザイン、流通など実践的なデザインテーマを通しての分析・考察・提案を行う。</p> <p>(南政宏助教)</p>
デ	服飾デザイン特論A	<p>【概要】 服飾デザインは常に人間を取り巻く社会や環境、時代と強く関わり合って成立している。この講義では、現代社会におけるデザインの事例を取り上げ、服飾と社会との関係性や、服飾が社会に与える特質を、特に感性面から捉えて分析するための考え方や手法について論ずる。</p> <p>(森下あおい教授)</p>
	服飾デザイン特論B	<p>【概要】 服飾デザインに関する文献研究を進めるのに必要な要素を持つ4種類の文献を講読して、研究の基礎となる知識を得るとともに、その背景を理解する。一次資料の扱い方や、各自の論文制作に役立つ研究方法と論文の構成などについても学ぶ。</p> <p>(横田尚美准教授)</p>
イ	マーケティング特論	<p>【概要】 消費者のニーズや行動傾向を観察・分析することを通じて、製品やサービスの価値をどのように高めることができるのか、あるいは、どのように高めるべきなのかを考える。文献購読のほか、製品・サービスの利用実態調査や消費者行動実験を行うことによって、既存製品・サービスの問題の発見、より良い製品・サービスの提案を行う。</p> <p>(山田歩助教)</p>
	生活デザインプロジェクト演習	<p>【概要】 地域や社会において、よりよい生活環境を実現するために何が問題なのかを明らかにする。その問題に対して取り組む意識や立場、有効な手法を議論し、その解決方法を検討し、具体的な提案や発表、制作等を行う。</p> <p>(全教員)</p>
部	生活文化学特別演習 (生活デザイン分野)	<p>【概要】 各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。</p> <p>(全教員)</p>
	生活文化学特別研究 (生活デザイン分野)	<p>【概要】 各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。</p> <p>(全教員)</p>
門		

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
健 康 栄 養 部 門	栄養制御論	<p>【概要】 今日の栄養化学には予防医学というべき面が強い。生活習慣病の一次予防を含めた健康の維持は、食生活を含めた生活環境によって制御される一面をもっている。栄養素の摂取条件によって、生体内の代謝その他の状態が変動している様相について解説し、健康維持が栄養素の摂取の仕方によってどのように制御しうるかについて論ずる。</p> <p>(柴田克己教授)</p>
	病態栄養学特論	<p>【概要】 近年、我々国民の健康を脅かす疾患として、癌、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧症等の生活習慣病が注目されている。これら生活習慣病の発症と進行を防ぐためには、病気と栄養の関係を明らかにし、栄養の面から疾病の予防や治療に取り組む事が不可欠となる。</p> <p>本講義では、これら生活習慣病の病態についてその分子レベルから臨床病態に至るまでを講義する事で、各々の疾患についての適切な栄養管理はもちろん、これら病気の発症を防ぐ適切な食事摂取など予防医学的な見地からも理解を深めていく。</p> <p>(矢野仁康教授)</p>
	栄養教育特論	<p>【概要】 健康の維持増進、疾病の発症には、栄養、運動、休養のバランスならびに、遺伝要因・環境要因・加齢が関連しながら深くかかわっている。ヒトの一生における小児期、青年期、壮年期、高齢期等それぞれのライフステージに応じた、また、様々なライフスタイルの対象にふさわしい健康管理の把握とすでに学習した知識の統合能力を基盤に栄養教育のあるべき姿を修得する。ヘルスプロモーションは、ひとびとが健康を得ることで幸福な人生を送れるようにとの願いから作られた概念、健康増進にかかわる一連の活動や理論の総称である。今、何故子どもたちにヘルスプロモーションが必要であるかを、各ライフステージにおける生活習慣病モデルシミュレーションの講義を行い、そこから各人のテーマを決定し、そのテーマに沿い、演習と講義で授業を展開する。</p> <p>(廣瀬潤子准教授)</p>
	栄養応答論	<p>【概要】 栄養素が消化、吸収、代謝され、生理作用を発揮する際に、各刺激に対する情報が細胞内外に伝達され、分子・細胞・細胞・生体レベルでそれぞれ調節・制御機構が働く。本講義では、分子レベル・細胞レベルで栄養素と生体が相互作用することによって情報伝達が始まり、その情報が制御・調節機構を介して臓器、さらには生体全体におよぼす影響について、文献を読み、ディスカッションを行うことによって理解する。また、栄養疫学の文献を扱うことにより、科学的根拠に基づいてどのように疫学データを取扱うべきであるのかについて理解する。</p> <p>(福渡努教授)</p>
	食品機能論	<p>【概要】 食品には、生命を維持する栄養機能、おいしさなどの感覚機能の他に3次機能ともいうべき生体防御、疾病の予防・回復、体調の調節、老化抑制などの生体調節機能がある。食品機能論では、この生体調節機能を中心にして、食品の持つ顕在的、潜在的生理機能性物質の機能特性、作用機序について後述すると同時に、接触すること自身が生体に対して発揮する調節機能についても解説し、健康に及ぼす食品の意義を深める。</p> <p>(森 紀之助教)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
健 康 栄 養 部 門	臨床栄養管理特論	<p>【概要】 急性疾患に対する栄養管理あるいは慢性疾患に対する長期にわたる栄養管理において、患者の実態を把握することは栄養アセスメントに不可欠である。患者の性、年齢、体格および病態や病状等に応じた栄養診断・栄養アセスメントにより、療養に必要なより具体的な栄養ケアプランを立案し、実際に提供するとともに栄養教育を行って、疾病の治癒・回復を図って行かなければならない。また、栄養マネジメントを行うことにより食事療法あるいは栄養食事指導が適切であったか、疾病コントロールとの関係を明らかにすることが必要である。患者の社会生活環境や療養環境などのほか、医療施設における栄養管理の現状を踏まえ、食事療法や栄養食事指導の実態に基づいた患者調査や症例研究によって、管理栄養士としてどのように疾病治療に対する役割を果たしていくのか理解する。</p> <p>(奥村万寿美准教授)</p>
	学校栄養教育実践特論	<p>【概要】 小・中学校における食の現代的課題を理解し、課題解決のための効果的な栄養教育の実際を学ぶ。</p> <p>(大谷貴美子非常勤講師)</p>
	調理科学特論	<p>【概要】 調理による物理化学的变化を理解させることを目標とする。</p> <p>(小川正非常勤講師)</p>
	食品栄養学特論	<p>【概要】 食品学、栄養学に関する最近の話題、最新の知見を取り上げ、解説する。</p> <p>(小西洋太郎非常勤講師、井上和生非常勤講師、木戸康博非常勤講師)</p>
	児童健康問題特論	<p>【概要】 成長・発育期にあたる児童における急性疾患や慢性疾患は、患児の病態や病状等に応じた適切な栄養診断・栄養アセスメントにより具体的な栄養ケアを立案し、日々実践することにより疾病の治癒・回復に役立つ栄養マネジメントとなる患児の社会生活環境や療養環境などの現状を踏まえた栄養治療、実態調査、あるいは症例研究を介して、児童の健康の維持・増進あるいは健康回復の問題点について考える。</p> <p>(奥村万寿美准教授)</p>
	食文化特論	<p>【概要】 琵琶湖を持つ滋賀県の食文化の特徴を世界の食文化と比較しながら学び、その成立背景を探っていく。滋賀の食文化は琵琶湖の湖魚類を発酵させたナレズシ文化があり、栄養バランスの優れた湖周型食生活を形成している。この特色ある食文化を学び継承していく。</p> <p>(堀越昌子非常勤講師)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
健	小児医学特論	<p>【概要】 「子どもは大人のミニチュアではない」。これは小児の疾病を理解するためのキーワードである。小児は生理的な特性が成人とは異なるため、疾病罹患時の病態も成人とは異なる。さらに小児期に特徴的な疾病も存在する。栄養に関連した疾病でも同様であるが、小児期は成長発達の時期でもあるため、これも踏まえて疾病を理解しなければならない。本講義ではこれらの点についての理解が進むよう最新の知見も交えて解説する。</p> <p>【オムニバス方式】 (多賀崇非常勤講師・高野知行非常勤講師・松井克之非常勤講師)</p>
	分子運動栄養学特論	<p>【概要】 健康の維持増進のためには適切な栄養摂取に加え身体運動が欠かせない。身体運動時には生体内のエネルギー代謝が大きく変動する。運動生化学的な知識をもとに、身体運動によるメカニカルストレスや代謝性ストレスが種々の組織および細胞に及ぼす影響について分子レベルで学ぶ。また、急性運動時やトレーニングによる慢性適応に効果的な摂取栄養素の量、質およびタイミングとその効果発現のメカニズムについて細胞レベルで考察する。</p> <p>(中井直也教授)</p>
康	運動生理・生化学特論	<p>【概要】 身体運動を行うことで生体内では骨格筋をはじめさまざまな器官で適応が起こる。習慣的な身体運動によって起こる各器官の適応や一過性運動時に起こる代謝応答について分子レベルで学ぶ。</p> <p>(東田一彦准教授)</p>
栄	行動学特論	<p>【概要】 行動学では、行動の至近要因（行動の起こるプロセス）と究極要因（行動の進化の基盤）の双方を研究することが基本となる。この講義では食事場面をはじめとするさまざまな日常場面を例にあげ、至近要因アプローチの一例として参加者の認知とコミュニケーションに注目した研究方法を紹介する。また究極要因アプローチとして人間の進化理論について学ぶ。</p> <p>【オムニバス方式】 (細馬宏通教授・上野有理准教授)</p>
養	栄養機能科学特論	<p>【概要】 生物界に存在する栄養素と非栄養成分の生体調節機構を最新情報を交えて解説する。</p> <p>【オムニバス方式】 (吉田宗弘非常勤講師・渡辺達夫非常勤講師・吉村徹非常勤講師)</p>
部	生活文化化学特別演習 (健康栄養分野)	<p>【概要】 各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。</p> <p>(全教員)</p>
門		

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
健康栄養部門	生活文化学特別研究 (健康栄養分野)	<p>【概要】 各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。</p> <p>(全教員)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
人 間 関 係 部 門	教育制度論特講	<p>【概要】 教育制度をめぐる今日的課題を視野に入れながら、近代日本における学校教育制度の成立・展開過程を分析・考察する。</p> <p>(杉浦由香里准教授) 教育制度に関する理論的・実践的諸課題について、歴史的または現代的視点から検討していく。</p>
	学校教育論特講	<p>【概要】 学校教育をめぐる今日的課題を念頭に置きながら、学校教育の本質と特性、現代における課題などを検討し、今後の学校教育のあり方について検討する。</p> <p>(木村裕准教授) グローバル化の進行する現代社会において学校内外の教育が直面する課題の様相とそれを克服するための取り組みに注目し、今後のカリキュラム開発や授業づくりのあり方について検討する。</p>
	比較行動論特講	<p>【概要】 人間の行動を行動のマイクロ分析、比較行動学の立場から論ずる。</p> <p>【オムニバス方式】 (細馬宏通教授) 日常会話における発語とジェスチャーの分析を通して、人間の空間認知について考察する。とくに行動の時間変化をどのように記述し、複数の時系列からなる行動どうしの関係をどう分析するかに主眼を置く。 (上野有理准教授) 人間の行動や心理を説明する1つの方法として、進化生物学的アプローチを紹介する。実際の人間の行動を例にあげ、他種との比較からそれらを読み解いていく。</p>
	行動発達論特講	<p>【概要】 人間関係論の立場から、人間行動の発達にかかわる問題点を解明し、講義する。</p> <p>(竹下秀子教授) ヒトを含めた霊長類における認知的側面を実証的に比較することにより、人間は進化の過程でどのような知性を独自に獲得してきたのかを考える。</p>
	フィールド心理学特講	<p>【概要】 司法臨床、学校臨床分野での知見に基づきつつ、社会的に排除されがちな子どもをどのようにまもり、育てるのかを実践的・理論的に考えていく。</p> <p>(松嶋秀明教授) 司法、学校領域を題材としつつ、児童の福祉のために資する実践とはなにかを考える。従来からある枠組みを再び問い直すような研究枠組みの方法論のひとつとしての質的研究をとりあげ、具体的にどのような研究がなされているのかを紹介していく。</p>
	社会・地域変動論特講	<p>【概要】 人間関係論の立場から、社会・地域の変動にかかわる諸問題を検討し、講義する。</p> <p>(大橋松行教授) 地域の生活問題の解決をめざして組織的な住民の運動がとる形態と戦略および政治的な働きかけを、理論的・実証的に明らかにし、それが地域社会の構造変動にどのように影響するかを検討する。</p>
	社会学特講	<p>【概要】 人間関係論の立場から、社会学が伝統的に取り組んできた諸問題を検討する。社会学の古典的文献についての学生による報告と、それに関する担当教員の講義を行なう。社会学という学問の概観を把握すると共に、その理解を深めることを目標とする。階層、文化、教育、都市、福祉、グローバル化など幅広いトピックを扱う。</p> <p>【オムニバス方式】 (丸山真央准教授、中村好孝助教)</p>

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
人 間 関 係 部 門	生活文化学特別演習 (人間関係分野)	【概要】 各自の専攻する分野にしたがって、文献購読やセミナー形式での報告・討論・評価を行い、研究遂行上の必要な専門知識、技術の深化と関連知識の拡大をはかる。 (全教員)
	生活文化学特別研究 (人間関係分野)	【概要】 各自の研究テーマに応じて、研究計画の立案、実験・実証技術の習得、作業仮説の設定、データ収集と解析と評価、問題の明確化と整理の手法、論文の作成など研究の遂行に関わる基本的事柄について指導する。 (全教員)

(参考) 平成29年度生活文化学専攻専任教員 (予定)

生活デザイン部門	専 門 分 野
教 授 面 矢 慎 介	道具学、考現学、デザイン史
教 授 印 南 比 呂 志	プロダクトデザイン、製品計画、地場産業論
教 授 宮 本 雅 子	建築色彩、インテリア計画、居住環境
教 授 森 下 あ お い	服飾デザイン、服飾造形学
准教授 横 田 尚 美	服飾文化史
准教授 藤 木 庸 介	建築設計、建築計画、都市計画、文化遺産観光
講 師 佐 々 木 一 泰	空間デザイン、建築・インテリアデザイン、家具デザイン
助 教 山 田 歩	マーケティング、消費者行動
助 教 南 政 宏	プロダクトデザイン

人間関係部門	専 門 分 野
教 授 細 馬 宏 通	コミュニケーション論
教 授 松 嶋 秀 明	臨床心理学、発達臨床学
准教授 上 野 有 理	比較認知発達科学
准教授 丸 山 真 央	地域・都市社会学、政治社会学、社会調査
准教授 杉 浦 由 香 里	教育学、教育史
准教授 木 村 裕	教育学、教育方法学
助 教 中 村 好 孝	社会学、福祉社会学
助 教 原 未 来	教育学、青年期教育

健康栄養部門

職名	担当教員	専門分野	研究内容
教授	矢野 仁康	病態栄養学	近年、我々国民の健康を脅かす疾患として、癌、脳卒中、心臓病、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病が注目されている。これら生活習慣病の発症と進行を防ぐためには、病気と栄養の関係を明らかにし、栄養の面から疾病の予防や治療に取り組む事が不可欠となる。本講義では、これら生活習慣病の病態についてその分子レベルから臨床病態に至るまでを講義する事で、各々の疾患についての適切な栄養管理はもちろん、これら病気にならないためにどのような栄養摂取をすればよいか予防医学的な見地からも理解を深めていく。
教授	中井 直也	運動栄養学	運動と栄養が生体に及ぼす影響を細胞レベルで解析することによって、健康の維持増進に好ましい運動と栄養摂取法の科学的根拠を明らかにする研究を行っている。①骨格筋の収縮活動に伴って発生するメカニカルストレスが骨格筋の肥大や筋持久力を向上させるメカニズムの解明②アミノ酸特に分岐鎖アミノ酸の生理機能の解明
教授	福渡 努	食品栄養学	食素材、食品成分、栄養素など食品に関する研究を通じて、栄養学の理論・実践に寄与することを目指している。特に、ビタミンやアミノ酸などの栄養素とヒトとの生理機能との間に成立する複雑な相互関係を解明するために、以下の研究に取り組んでいる。①アミノ酸代謝調節による脳機能の保護および制御 ②食品中の栄養素の生体有効性の評価
准教授	奥村万寿美	臨床栄養学	傷病者に対する栄養管理を目的とし、病院において外来患者、入院患者を対象に調査研究を進めている。消化器疾患や感染症などの急性期疾患時における栄養アセスメントに基づく栄養ケアプログラムの作成・実施とその有効性について、あるいは肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症、心疾患などの生活習慣病や肝臓、腎臓疾患などの慢性疾患罹患患者に対する栄養食事指導（栄養ケアプログラム）の有用性など臨床栄養管理の効果判定方法などについて研究する。
准教授	廣瀬 潤子	栄養教育学	急速な社会環境・生活構造の変化や健康に対する価値観が多様化した現状において、生涯を通じた健康づくりの啓発・普及のためには、それぞれのライフステージにおける健康に関する諸要因の解明と教育介入が必要である。妊娠・授乳期の母子および成人期・高齢期を中心に、現代の食環境にマッチした栄養教育方法の確立を目指す。
准教授	今井 絵理	公衆栄養学 栄養疫学	どのような食事が健康維持や生活習慣病の発症予防のためにはよいのかを明らかにすることを目的に、日本人を対象とした栄養疫学研究を行っている。具体的には、国民健康・栄養調査や地域在住の中高齢者を対象とした大規模コホートのデータを用いて、高齢者の健康維持、生活習慣病発症予防に寄与する栄養素、食事パターン解明に取り組んでいる。
准教授	東田 一彦	運動整理・ 生化学	運動時や栄養摂取による生体の代謝適応について研究を行っている。 ①運動による骨格筋のエネルギー代謝充進機序に関する研究 ②機能性食品が骨格筋の代謝適応を引き起こす機序に関する研究

平成29年度 滋賀県立大学大学院(博士前期課程)入学志願票
[一般選抜用]

	受験番号	※	
志望専攻	人間文化学研究科 専攻		
志望研究部門			
フリガナ			性
氏名			別
生年月日	年 月 日		
現住所	〒	—	電話番号 () —
合格通知等 送付先	〒	—	電話番号 () —
地域文化学専攻 (日本・歴史文化 論部門、日本・ 現代地域論部門) の専門科目で選 択する外国語	英語 ・ 中国語 ・ 朝鮮語 ・ 漢文 日本史料講読 (受験する言語等に○印をすること)		

出願資格	学 校 名	学 部・学 科・専攻名
		学部
	大学	学科
	学校	専攻
	年 月 卒業 ・ 卒業見込 ・ その他()	

(注) ※印欄は記入しないこと。

履 歴 書

		受験番号 ※	
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	年 月 日		
区分	年 月 日	事 項	
学 歴 (高等学校卒業以降) ただし、外国において 通常の学校教育を受けた者は、 小学校入学から記載。	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
職 歴	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
資 格	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
賞 罰 (その他の特記事項)	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	

- (注) 1 履歴事項は、漏れなく記載すること。学歴は高等学校卒業から記載すること。ただし、外国において通常の学校教育を受けた者は、小学校入学から記載すること。
- 2 休学期間がある場合は、学歴欄にその期間および理由を記載すること。
- 3 在職中の者は、職歴欄の最後に入学後の予定を記載すること。(例：在職のまま・休職・退職・未定等)
- 4 ※印欄は記入しないこと。

平成29年度 滋賀県立大学大学院(博士前期課程)入学志願票
[社会人特別選抜用]

		受験番号	※
志望専攻	人間文化学研究科 専攻		
志望研究部門			
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	年 月 日		
現住所	〒	電話番号	()
勤務先等	〒	電話番号	()

出願資格	学 校 名	学 部・学 科・専攻名
		学部
	大学	学科
	学校	専攻
	年 月 卒業・卒業見込・その他()	

(注) ※印欄は記入しないこと。

履 歴 書

		受験番号 ※	
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	年 月 日		
区分	年 月 日	事 項	
学 歴 (高等学校卒業以降) ただし、外国において 通常の学校教育を受けた者は、 小学校入学から記載。	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
職 歴	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
資 格	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
賞 罰 (その他の特記事項)	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	

- (注) 1 履歴事項は、漏れなく記載すること。学歴は高等学校卒業から記載すること。ただし、外国において通常の学校教育を受けた者は、小学校入学から記載すること。
- 2 在職中の者は、職歴欄の最後に入学後の予定を記載すること。(例：在職のまま・休職・退職・未定等)
- 3 ※印欄は記入しないこと。

平成29年度 滋賀県立大学大学院(博士前期課程)入学志願票
[外国人留学生特別選抜用]

	受験番号	※	
志望専攻	人間文化学研究科		専攻
志望研究部門			
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	年 月 日		
現住所	〒	電話番号	()
国籍		在留資格	
入国年月日	年 月 日	在留期限	年 月 日まで

出願資格	学 校 名	学 部・学 科・専攻名
	大学	学部
	学校	学科 専攻
	年 月 卒業・卒業見込・その他()	
日本語能力	(日本語能力試験成績等)	

- (注) 1 「入国年月日」欄、「在留資格」欄および「在留期限」欄は、すでに日本に在留している者のみ記載すること。
2 ※印欄は記入しないこと。

履 歴 書

		受験番号 ※	
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	年 月 日		
区分	年 月 日	事 項	
学 歴 (高等学校卒業以降) ただし、外国において 通常の学校教育を受けた者は、 小学校入学から記載。	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
職 歴	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
資 格	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	
賞 罰 (その他の特記事項)	・	・	
	・	・	
	・	・	
	・	・	

- (注) 1 履歴事項は、漏れなく記載すること。学歴は高等学校卒業から記載すること。ただし、外国において通常の学校教育を受けた者は、小学校入学から記載すること。
- 2 在職中の者は、職歴欄の最後に入学後の予定を記載すること。(例：在職のまま・休職・退職・未定等)
- 3 ※印欄は記入しないこと。

研究志望調書

(滋賀県立大学大学院博士前期課程)

志願者氏名		受験番号	※
(卒業論文等これまでの研究の経過と入学後の希望する研究テーマの概要について)			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

(注) 1 ワープロ使用および貼り付け可。貼り付ける場合は、枠内に貼り付けること。(裏面に続く)
2 ※印欄は記入しないこと。
3 <地域文化学専攻日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論部門のみ>10月募集では、「入学後の希望する研究テーマの概要」を次の項目にしたがって具体的に書くこと。(1)研究テーマ(できるだけ具体的に書くこと)、(2)そのテーマを選んだ理由と目的、(3)具体的な研究の内容と方法。
また、提出ページ数は10月募集：6ページ、2月募集：2ページ、とし、3ページ以上の場合にはB票表面をコピーして使用すること。

平成29年度滋賀県立大学大学院人間文化学研究科(博士前期課程)

D票

受験票 [一般・社会人・留学生]

受験番号	※			写真貼付欄 上半身、無帽、正面向き で最近3か月以内に撮 影したもの 縦4cm×横3cm	
志望専攻	専攻				
外国語名	(一般選抜の地域文化学専攻(日本・歴史文化論部門、日本・現代地域論 部門)受験者のみ記入)のみ				
(フリガナ)	-----				
氏名	-----				
生年月日	年	月	日	性別	男・女

- 注意事項 1 本受験票は試験当日必ず携帯すること。
 2 本受験票は合格後入学手続きに必要ですから紛失しないこと。
 3 ※印欄は記入しないこと。

平成29年度滋賀県立大学大学院人間文化学研究科(博士前期課程)

E票

写真票 [一般・社会人・留学生]

受験番号	※			写真貼付欄 上半身、無帽、正面向き で最近3か月以内に撮 影したもの 縦4cm×横3cm
志望専攻	専攻			
(フリガナ)	-----			
氏名	-----			
性別	男・女			
生年月日	年	月	日	

※印欄は記入しないこと。

入学検定料振込確認票

F票

受験番号	※
------	---

この枠の中に振込後の「入学検定料振込金受領証明書」を
 貼り付けてください。

出願資格認定申請書

滋賀県立大学長 滋賀県立大学大学院博士前期課程入学者選抜試験に出願を希望します。 ついては、出願資格の認定を受けたいので、所定の書類を添えて申請します。 年 月 日 氏 名 <small>ふりがな</small> _____ 印 男・女 年 月 日生 (満 才)	
志望専攻	人間文化学研究科 専攻
志望研究部門	部 門
出願資格認定区分	博士前期課程 (一般選抜・社会人特別選抜・外国人特別選抜) の出願資格 () に該当 ※該当する部分に○を付すこと
住 所	〒 - 電話番号 () 都道府県
審査結果通知先	〒 - 電話番号 () 都道府県
緊急連絡先電話番号	()
最終学歴	学校名 (学部・学科)
一般選抜出願資格 (8) の場合は右記を記入してください。	$(1) \frac{\text{3年次修得見込単位数 (単位)}}{\text{卒業要件単位数 (単位)}} = \quad \%$ ※3年次修得見込単位数、卒業要件単位数を申告し、その申告が確認できる資料を添えること。 $(2) \frac{\text{修得した単位数のうち最上位の単位数 (単位)}}{\text{修得した単位数 (単位)}} = \quad \%$ ※成績証明書から記入すること。



滋賀県立大学

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
TEL0749-28-8217・8243 FAX0749-28-8472
ホームページアドレス <http://www.usp.ac.jp/>
E-mail:nyushi@office.usp.ac.jp

